別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（学校教育研究科　教育支援高度化専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	心理臨床研究に関する科目	臨床心理学特論Ⅰ	心理臨床実践において基本的な知識と技能を習得し、職業上おこりうる倫理的な問題、多職種との連携などの諸問題について理解を深めることを目標とする。 臨床心理学の歴史をはじめ、援助の対象、職業倫理の問題など基本的な臨床心理学のテーマをとりあげる。様々な立場からみた事例についてグループで検討を行うなどアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れる。またイメージを中心に非言語的な表現についての理解を深め、象徴的表現について学び、リラクセイション技法やイメージ体験の習熟も行う。	
		臨床心理学特論Ⅱ	認知行動療法，行動療法，応用行動分析を中心に，行動理論および認知情報処理理論に基づいた臨床心理学的援助法について，理論と実践に関する理解を深めることをテーマとする。心理学的な問題を複数の立場から見立てられるようになること，およびその見立てから，介入方法を検討できるようになることを目標とする。 認知行動療法，行動療法，応用行動分析の土台である行動理論と認知情報処理理論では，どのようにこころの問題を理解し，援助を行うのかを概説する。また，事例を取り上げ見立てと，見立てに基づいた具体的な介入技法を学ぶ。	
		臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	心理療法の主要な理論と技法の理解を深めるとともに、心理支援実践への適用の仕方や留意点を理解し、さまざまな支援対象の状態、特性、状況に応じた援助の選択や調整など臨床実践の基本を習得する。加えて、心理臨床実践に不可欠なセラピストに必要となる基本的な態度や姿勢、留意点とともに、心理療法においてもっとも重要なクライエントーセラピスト関係に関し“関係の深さ（relational depth）”と今-ここで（here-and-now）”を含めて理解を深める。 講義内でのグループ・ディスカッションを通し、自己の気づき（self-awareness）を深め、自己表現や検討を深める方法を習得する、さらに、自らの体験を通した学びを通し心理臨床実践の習得および自己理解のために【夢分析】【箱庭療法】を含める。	
		臨床心理面接特論Ⅱ	多様なクライエントとそのニーズに対して，円滑に心理的援助を提供するために必要となる知識，技術，アプローチ法を修得することを目標とする。 より円滑な臨床実践に必要となる，初回面接・継続面接の技法について解説し，心理面接を展開する実践的な知識と技術を学習する。また，子どもへの心理的援助，親面接・家族面接，ペアレントトレーニング，集団精神療法などのアプローチについて解説し，実際の現場への適応と留意事項を学習する。	
		臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	心理的アセスメント（臨床心理査定）の意義，心理的アセスメントに関する理論と方法，心理に関する相談，助言，指導等へ心理的アセスメントの応用について理解を深めることを目標とする。 心理的アセスメントは，心理職の主要な業務のひとつである。この演習では，心理的アセスメントに必要な基本的な考え方や方法論を解説する。また臨床現場で頻繁に用いられる心理検査法を取り上げ，施行と解釈法および検査報告書の書き方を学ぶ。	
		臨床心理査定演習Ⅱ	心理アセスメントの技法である投映法と知能検査に関する応用的な知識を身に付け，被検者の状態や検査の目的に合わせて技法を選択肢，適切な手順で実施，評価，解釈する力を養う。また，用途に合わせて，質問紙を含めた様々な検査を組み合わせる能力を習得することを目標とする。 臨床実践の現場では質問紙のほかに，投映法や知能検査など高度で複雑な心理検査を使う場面が多々ある。この授業では，それらの技法を実際に経験し，事例にも触れることで理解を深めていく。	

	臨床心理基礎実習	心理面接を行うために必要な基本的態度、面接技術および臨床心理学の専門性を学ぶことをテーマとする。具体的には、臨床心理面接、臨床心理学の人間観と専門性に加えて、傾聴技法、質問技法、感情の反映、内容の反映、要約などの面接技術を修得することを目指す。マイクロカウンセリングに基づくカウンセリングスキルの学習を行い、学習したスキルをロールプレイで実践する体験学習を行う。また、心理相談センターの体験については、本学に附属する心理相談センターのガイダンスおよびセンターの施設見学を行うほか、事例検討の基本を学ぶケース・カンファレンスの出席を通じて体験学習を行う。 なお，本実習は受講者をグループに分けて実施する。	共同
	臨床心理実習ＩＡ（心理実践実習ＩＡ）	臨床心理学の高度専門家として、心理療法に必要となる理論、スキル、態度、構造や契約、見立てと方針など、相談業務を進めるにあたり必要となる基本を習得すること及び学内の心理教育相談センターでの研修でこれらを実践を通して達成するとともに、学外の関連機関の見学実習を行い、多職種連携の実際の理解を深めることを目標とする。 ・他受講生が担当するセッションの観察及びこれらに関するスーパービジョンに参加し、クライエント理解と対応に関し検討を深めるとともに，個別スーパービジョンを行う。 ・心理教育相談センターでクライエントを担当し、セッションの振り返りに基づき、クライエント理解と見立てをたて、これらに基づく心理臨床活動を行い、その内容を検討する。 ・インテーク報告会及びケース・カンファレンスでの検討に参加する。 ・学外の関連機関の見学実習では、学内での事前・事後指導ならびに見学実習における事前ガイダンス、事前学習、見学実習、見学後のレポート作成と報告会を行う。 なお，本実習は受講者をグループに分けて実施する。	共同
	臨床心理実習ⅡＡ（心理実践実習ⅡＡ）	心理臨床家にとってさまざまな課題をもつクライエントの理解と対応に必要な知識、スキル、態度、在り方、心理療法における構造や契約の結び方、個人情報保護の伝え方、見立てと見立てに基づく対応を修得する。心理療法に加え、心理査定やコンサルテーション、関連する法律や多職種連携など、心理臨床家に求められる幅広い能力と知識を深め、実践力を高める。 ・臨床心理実習Ｉ（心理実践実習ＩＡ）での臨床研修を踏まえ、心理教育相談センターでクライエントを担当し、スーパービジョンを受ける。 ・加えて、他受講生のセッションを観察し、グループ・スーパービジョンに参加し、意見交換やロール・プレイなどを含め、クライエントの理解と対応を通して心理臨床活動を実践する。 ・個別スーパービジョンを受ける。 ・インテーク報告会とケース・カンファレンスに出席し、検討を行う。 なお，本実習は受講者をグループに分けて実施する。	共同
	心理実践実習ＩＢ	学外実習：保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・矯正分野、および産業・労働分野から実習先を選定し、事前・事中・事後指導を通して、対象分野で必要となる公認心理師の役割や業務内容および担当する要支援者の支援計画を立案し心理支援を行うことで，公認心理師の役割や要支援者の心理的理解と対応、今後の課題を検討することをテーマとする。 実習先の希望と目的の明確化を行い、実習先での指導を受け、前期後半から後期の間に原則週1日の実習を2-3月中まで行う。実施中は、毎日の記録、担当クライエントに対する支援計画を立案し、臨床指導者および学内指導者からの指導を定期的に受けながら実習を進める。実習終了後は記録類を提出し報告会で発表する。 なお，本実習は受講者をグループに分けて実施する。	共同

		心理実践実習ＩＢの実習を踏まえ、心理臨床家に求められる心理支援だけでなく多面的な治療および支援のあり方、多職種連携の実際への理解を深めるとともに実践力を高めることを到達目標とする。 医療分野、教育分野、福祉分野、司法・矯正分野、あるいは産業・労働分野から少なくとも2分野での実習を行い、分野別の差異や共通点などを体験的に学修する。職業倫理や関連法律の理解と実践における遵守を習得することも目標とする。 学内での実習ガイダンスや報告会を通し、各実習先の理解を深め、実習の目的と目標、希望する担当クライエントと自身の心理臨床家の課題をまとめ、事前指導を受け、関連疾患や関連法律、関連組織などの事前学習を進める。実習先の決定後は、実習先を訪問し事前指導を受け、実習の準備を進める。 実習開始後は、指定の記録類を作成し、臨床指導者および学内指導者からの指導を受け、担当クライエントへの心理支援の援助計画の立案と実施、振り返りを行う。実習期間中は、臨床指導者からの指導に加え、学内指導者から巡回指導を受け、実習終了後は、記録を提出し報告会で発表する。 なお，本実習は受講者をグループに分けて実施する。	共同
		臨床心理実習ＩＩＢ	臨床心理実習ＩＡ（心理実践実習ＩＡ）を履修し、臨床心理実習ＩＩＡ（心理実践実習ＩＩＡ）の履修登録を行い相談センターでの臨床研修を行うとともに、臨床心理学の高度専門家として、学外での精神科病院、教育機関、公的地域精神保健福祉機関での実習を行い、臨床心理士の業務や各組織の特殊性および組織内における臨床心理士の役割などを体験的に理解を深める。加えて、実習先で担当クライエントとのかかわりや経験のある臨床心理士とのかかわりと指導を通して、臨床心理士としての自身の課題や自己理解を深める。 精神科医療機関、教育関連機関、地域精神保健福祉機関の実習先で、連続型あるいは散発型の実習を行う。事前指導および実習開始前から学内での事前指導を開始し、実習開始後は臨床指導者からの指導を受け、帰校日に学内指導者に記録類の提出と必要に応じた指導を受ける。 実習終了後は、すべての記録を完成し心理教育相談センターに提出する。 なお，本実習は受講者をグループに分けて実施する。	共同
		学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	学校教育が抱える様々な課題の心理的背景と対応方法について学び，実際の学校現場において自ら考え対応を行うことができるようになることを目標とする。保護者との信頼関係を築くための連携のあり方を身につけ，スクールカウンセラーをはじめとした関係機関との連携のあり方も学び，さらには教職員自身の社会的役割とメンタルヘルスについて理解を深めることを目標とする。 不登校，ひきこもり，いじめ，虐待，性の問題など学校教育が抱える様々な課題の心理的背景とその対応について学び，さらには事例をグループで検討し，問題のアセスメントと対応について自ら考える。保護者との信頼関係を築くための実習を行い，関係機関との連携の実際についても事例を通して学ぶ。また教職員自身の社会的役割とメンタルヘルス予防についても理解を深める。	
		投映法特論	心理アセスメント法のひとつであるロールシャッハテストの施行法，評価法，解釈法を習得し，臨床場面で実施できるようになることを到達目標とする。 ロールシャッハテストは，被検者のパーソナリティ傾向や病態水準，価値観，状態像をより詳細にアセスメントすることのできる心理検査である。一方で，これらの検査の実施と解釈には相応の訓練と経験を要する。この演習では，ロールシャッハテストの説明，実施法・評価の説明，スコアリングの説明とサマリー作成等，実際に検査の実施，評価，解釈を通し，理論的背景，解釈仮説，結果への接し方を学ぶ。	

		臨床心理地域援助特論	医療，福祉，教育領域における地域援助的心理臨床活動の実際について学び，コミュニティの視点からの理解能力を身につけることを目標とする。 コミュニティ・アプローチは，地域の社会的環境的資源を用いて個人，組織，家族，社会などに介入する心理臨床行為である。この授業では，実践例を学習・ディスカッションし，その理解を深めることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （4 近藤 孝司／7回） コミュニティ心理学，公衆衛生と予防，コンサルテーションとコラボレーション，教育領域におけるコミュニティ・アプローチの実践例について授業を行う。 （1 五十嵐 透子／8回） システマティックな理解と対応，チーム・アプローチの種類と課題，医療領域や福祉領域におけるチーム・アプローチ，対象別のチーム・アプローチ，個人・集団・組織のレジリエンス・ストレングスの促進アプローチについて授業を行う。	オムニバス方式
		心理学統計法特論	心理学の量的研究に関わる方法論について、その原理を理解し適切な手法を選択して使いこなせるようになることを目標とする。 この授業では、多変量解析のうち構造方程式モデリングを取り上げる。回帰分析に関する知識をベースにして、パス解析、確認的因子分析、多重指標モデルを解説し、その後発展的な内容として多母集団同時分析および潜在成長曲線モデルの解説を行う。 構造方程式モデリングの原理についての理解にとどまらず、研究仮説検証に用いることができるように、適宜心理学における応用研究の紹介やソフトウェアを用いたデモンストレーションを加える。	講義　１６時間 演習　１４時間
		応用行動分析学特論	心理学のユニークな一分野である「行動分析学」の哲学と理論を理解し、それらによって、人間の行動の原因や理由について、「人の皮膚内の要因や、こころや心的概念」ではなく、「環境との相互作用」から説明できるようになることを目標とする。さらに、行動分析学をヒューマンサービスに関する様々な領域において適用している「応用行動分析」を理解し、対象者への支援や援助方法、支援や援助を提供する立場の者にとっても実現可能な妥当性の高い方法を具体的に提案できるようになることを最終的な目標とする。 心理臨床、特別支援教育、生徒指導、学校教育相談、保育、福祉等、あらゆるヒューマンサービスに携わる者にとって、理論と実践知に裏付けられた応用行動分析を紹介する。応用行動分析の基礎となる「行動分析学」の哲学と理論、そしてそれらと一体化して提供される応用行動分析の方法論について、具体的な事例を交えて紹介する。	
		対人関係学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	心理臨床の専門職だけでなく、対人援助職に求められるシステムに関する理解と支援の理論と方法を体験学習を含めて学ぶ。システムのもっとも基本となる家族関係や集団内での関係やかかわり、コミュニティに関する心理支援を、それぞれのシステムのもつ強さ、リソース、コーピングを含む問題解決や回復力を尊重し、これらを前提として活用する対応を学ぶ。 システマティックな理解を深め、家族・集団・コミュニティというシステムの理解とそれぞれの強さに焦点をあてることに関する講義に加え、適宜輪読、DVDs視聴に基づきディスカッションを通した学びとともに、体験的に家族療法やグループ・サイコセラピー、地域を対象とした対応と多職種の協働の実践を学ぶ。	

	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	心身医学を正しく知り、臨床に役立てる事ができるように、ストレス（ストレッサー）と生体の反応について説明できること，心理・社会的ストレッサーが身体疾患に及ぼす影響について、心身相関を学ぶことによって理解すること，ホメオスタシスが破綻した結果生ずる各種の障害とその対処についての基礎的な知識を習得することを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （14 村松 芳幸／11回） 心身医学の歴史と現状，人体の構造と機能，ストレス、生理的メカニズムと病理，情動のしくみ、心理的メカニズムと病理，心身症総論、心身相関、治療的自己，睡眠と健康，心身医学的治療について授業を行う。 （12 真島 一郎／2回） 呼吸，循環器系の心身症、消化器系の心身症，小児心身症，がんと心身医学について授業を行う。 （8 内山 徹／1回） 整形外科領域の心身症について授業を行う。 （10 清水 夏恵／1回） 内分泌・代謝系の心身症について授業を行う。	オムニバス方式
	発達障害学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	「発達障害」のある児童生徒の理解と支援について、臨床心理学、学校心理学、児童精神医学、特別支援教育の立場から、基本的な知識を習得することを目標とする。さらに、教員、保育士、スクールカウンセラー、その他の専門職などとして行うべき支援や、職種間の連携や協働についての基本的な方法論について学習することをテーマとする。 近年、学校現場でクローズアップされている「発達障害」のある児童生徒の理解と支援について、臨床心理学、学校心理学、児童精神医学、特別支援教育の立場から、基本的な知識を講義する。さらに、教員、保育士、スクールカウンセラーなどの専門職として、学校や家庭での支援に携わる際の基本的な方法論について解説する。	
	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	心理臨床家として活動する中で、非行問題や犯罪の問題に遭遇することがあるが、非行・犯罪臨床においては、心理臨床家が臨床心理学的介入を行う際に、対象者が援助を受ける動機づけが欠如している、あるいは極めて低いことが珍しくない。そこで、当科目では、非行や犯罪事例の理解を通じて、臨床心理学的援助を行うための基本的な知識と実務スキルについて知識を習得することをめざし、高度な心理専門職を養成することを目的とする。 非行・犯罪心理学の諸理論、非行・犯罪の発生機序等の学習を通じて、非行・犯罪事例とその支援のあり方について理解をする。また、各事例に対する具体的な臨床心理学的援助技法の習得を目指す。	
	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	産業・労働分野に関わる公認心理師、臨床心理士の実践について理解できることを目標とし，産業・労働分野における心理実践において必要な知識と技術について講義を行う。職場のメンタルヘルス対策の歴史と実際，働く人のストレスや健康と安全，ハラスメント，多職種連携，障害者雇用，キャリアとワークライフバランス等に関する授業を通し，特に産業・労働分野における心理臨床的問題とその背景、様々な理論や公認心理師、臨床心理士の役割等について学ぶ。	
	心の健康教育特論(心の健康教育に関する理論と実践)	心の健康に関連した問題に関して、その特徴と支援方法に関する知識を習得することを目標とし，学校現場で実践できる心の健康教育の方法について、その理論と実践法について理解することをテーマに授業を行う。 （オムニバス方式／全15回） （13 宮崎 球一／7回） 医療領域の健康教育では、児童・生徒、保護者、教職員の心の健康に関連した問題を取り上げ、背景要因や支援法を概説する。主に抑うつ、不安、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害等の発達障害の特徴を概説し、学校・学級内での体制作りも含めた包括的な支援方法を解説する。教育領域の健康教育では、ポジティブ行動支援、ウェルビーイング、アサーションを扱う。各テーマに関してその理論と実践法を概説する。 （5 田中 圭介／8回） 「心の健康教育授業の実践」の授業を担当し，学校で児童生徒を対象に心の健康教育を実践するための模擬授業を計画し、授業内で発表を行う。グループに分かれてそれぞれのグループで関心のあるテーマに関する授業を計画する。	オムニバス方式

		発達心理学特論	人がそれぞれの文化・社会の中でどのように変化していくのかについて，発達の初期から生涯にわたる過程としての生涯発達の全体像を把握すること，また，発達心理学的思考や研究法を理解し，将来，心理職として人を支援していくうえで必要となる心のしくみや働きを発達的にとらえる方法を身に付けることを目標とする。発達心理学的知見に基づき，人という存在に対する多面的な理解を深め，発達のそれぞれの時期における支援を行うための専門性の基礎作りを行うことも目標としている。 講義を中心とするが，各回の内容に沿った文献を適宜提示し，それについて検討を行うことも行う。 人の発達について生物学的側面と環境的側面からとらえ，その後，様々な人の側面についての生涯発達の全体像を把握したのち，各発達段階についての概略を説明する。	
		臨床心理学研究法特論	エビデンスに基づいた臨床心理学（EBCP；evidence-based clinical psychology）の研究の作法を学習することをテーマとする。 臨床心理学の高度専門職に求められ、研究の論文化に必要となる臨床心理学研究と主要な研究法を習得すること、ならびに、人の「こころ」を対象とする研究活動の素養や科学者-実践家モデルの基本的姿勢を身につけることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （5 田中 圭介／4回） 研究の進め方，文献研究について，また，量的研究に関して介入研究や統計解析の選択について授業を行う。 （1 五十嵐 透子／1回） 事例研究に関して，ケース・レポートについて授業を行う。 （2 加藤 哲文／2回） 事例研究に関して，行動観察法や単一事例実験計画法について授業を行う。 （6 飯塚 有紀／2回） 質的研究に関するインタビュー法や，混合研究法について授業を行う。 （4 近藤 孝司／2回） 質的研究に関して，コード化や理論化・モデル化について授業を行う。 （7 大宮 宗一郎／2回） 量的研究に関して，フィールドワーク，尺度研究について授業を行う。 （3 宮下 敏恵／2回） 量的研究に関する実験研究，また，研究倫理と論文の書き方について授業を行う。	オムニバス方式
	専門セミナー	心理臨床研究セミナーⅠ	臨床心理学における研究とさまざまな質的および量的方法に関する知見を深める。加えて、方法論と結果の分析および考察に加え、論文化に関する基礎的知識と態度を修得するとともに，各学生の関心領域での研究テーマの選定から絞り込み、キーワードの抽出と操作的定義、高い信頼性および妥当性の研究方法を選定し、修士論文作成のための基礎を修得する。 所属研究室のセミナーに出席し、修士論文作成に関しグループおよび個別での指導を受け、検討を深める。加えて、心理臨床コース開催の修士課程2年生の“修士論文中間発表会・審査会”（前期）と“修士論文構想発表会”および“公開発表会”（ともに後期）に参加し、受講生各自の研究内容の検討だけでなく、他学生の研究内容や方法論、倫理的配慮などのさまざまな側面から、臨床心理学における研究について理解を深め、研究を進める。	共同
		心理臨床研究セミナーⅡ	心理臨床研究セミナーⅠでの研究活動を踏まえ、修士論文の計画立案後は、研究倫理審査委員会からの承認を受け、データ収集・結果分析および考察とこれらを執筆規定に沿って完成するだけでなく、心理臨床の専門職としての“研究者-実践家”モデルに基づく資質を高める。 関心のあるテーマと臨床心理学における研究の理論や方法論、データ分析などに関し、各研究テーマに沿った方法の選定などの自己学習を行う。加えて、修士論文完成に必要となるデータ収集・分析・考察・論文作成も行う。 所属研究室のセミナーに出席し、各受講生の研究段階における検討を行うとともに、グループや個別での指導を受ける。加えて、心理臨床コース開催の修士論文中間発表・審査会での発表を行い検討を進めるとともに、修士論文口述試験を受け、合格後には修士論文公開発表会で口述およびポスター発表を行う。	共同